

本資料は2018年11月15日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC 所長より出した返信レターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式な報告書は英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター
一般財団法人 電力中央研究所
〒100-8126 東京都千代田区大手町1-6-1

ジョージ・アポストラキス
NRRC所長

2018年11月21日

ジョンW. ステットカー氏
技術諮問委員会委員長

件名： 2018年11月15日付報告書「2019年度のNRRC研究計画案」

ステットカー委員長

我々の研究計画をレビューして頂く中での議論、および委員会から示された知見に感謝申しあげる。

NRRCはTACの提言について、以下の通り回答する。

1. 2019年度研究計画

標記報告書において、委員会からは「2019年度研究計画において緊急の注意を要する重要な研究ギャップはないと判断した」との見解が示された。こうした評価をいただけたことを大変ありがたいと思う。

2. リスク情報を活用した意思決定に関するガイダンス及びテンプレート

2019年度から、電力会社をはじめとするステークホルダーと協力して、幅広い実用的な状況をカバーした事例の充実を進めていく。

3. 全体的な研究プログラム及び次々年度以降の計画

研究成果の実機への適用を評価、確認するとともに、実際にリスクマネジメントを行うにあたり本当に使いやすいものとするため、NRRCは、原子力産業界とともにモデルプラント評価やパイロットプラント計画を実施していく。なお、実施にあたっては、レベル1，2 PRA技術の成熟度も加味しながら、可能な限り適用していくことを検討する。

4. 各プロジェクトのプレゼンテーションの改善

我々は、TACの提言事項に同意する。具体的には、今回、主要プロジェクトの概要説明を行ったOVERVIEW資料を改善し、ご指摘の内容を反映する。

敬 具

ジョージ・アポストラキス（本人署名）